

番号	質問の要旨	質問に対する回答
1	旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業によって交通量の増加が見込まれますが渋滞等により県道瀬谷柏尾線に車の流出が考えられます、現状交通量も多く歩道も無い形状の為子供の交通に不安を感じております、交通量増加に伴う措置はなにかお考えでしょうか	<p>将来の交通需要に対応するため、土地区画整理事業の中で環状4号線の拡幅整備や幅員26mの幹線街路（上川井瀬谷1号線および上川井瀬谷2号線等）、幅員12～18mの道路等を整備します。また、周辺では三ツ境下草柳線、瀬谷地内線の整備や国道16号線（八王子街道）の拡幅整備を進めるとともに、新たな交通や新たなインターチェンジの検討も進めています。これらを一体的に整備することにより、交通混雑の分散・緩和を図り、周辺地域への影響を低減させていきます。</p> <p>引き続き、工事着手に向け、交通渋滞などによる周辺地域への影響を低減させるよう、交通解析をしっかりと行いながら取り組んでいきます。</p> <p>なお、県道瀬谷柏尾においては、歩行者の安全対策を図るため、本郷一丁目から二丁目の延長約300m、中屋敷一丁目から二丁目の延長約430mにおいて、歩道設置等の道路改良を進めています。</p>
2	資料 P. 30、P. 32 の道路ですが、テーマパークを核とした開発場所の道路ですよね？ この道路が二車線道路とは、渋滞必須ではないですか。	<p>将来の交通需要に対応するため、土地区画整理事業の中で環状4号線の拡幅整備や幅員26mの幹線街路（上川井瀬谷1号線および上川井瀬谷2号線等）、幅員12～18mの道路等を整備します。また、周辺では三ツ境下草柳線、瀬谷地内線の整備や国道16号線（八王子街道）の拡幅整備を進めるとともに、新たな交通や新たなインターチェンジの検討も進めています。これらを一体的に整備することにより、地域における道路交通ネットワークを計画的に形成し、交通混雑の分散・緩和を図ります。その中で、上川井瀬谷1号線および上川井瀬谷2号線は、2車線の道路として計画しています。</p> <p>引き続き、工事着手に向け、交通渋滞などによる周辺地域への影響を低減させるよう、交通解析をしっかりと行いながら取り組んでいきます。</p>
3	テーマパークへの道路を二車線道路とは渋滞必須ではないのでしょうか？	<p>将来の交通需要に対応するため、土地区画整理事業の中で環状4号線の拡幅整備や幅員26mの幹線街路（上川井瀬谷1号線および上川井瀬谷2号線等）、幅員12～18mの道路等を整備します。また、周辺では三ツ境下草柳線、瀬谷地内線の整備や国道16号線（八王子街道）の拡幅整備を進めるとともに、新たな交通や新たなインターチェンジの検討も進めています。これらを一体的に整備することにより、地域における道路交通ネットワークを計画的に形成し、交通混雑の分散・緩和を図ります。その中で、上川井瀬谷1号線および上川井瀬谷2号線は、2車線の道路として計画しています。</p> <p>引き続き、工事着手に向け、交通渋滞などによる周辺地域への影響を低減させるよう、交通解析をしっかりと行いながら取り組んでいきます。</p>
4	資料 P. 33 の八王子街道ですが、いつまでに工事を完了する予定ですか？ また、ここだけ4車線にしたところで渋滞の解消にはつながりませんが、花博・その後のテーマパークが引き起こすであろう渋滞に関してこの道路計画で良いと市は考えているのですか？	<p>将来の交通需要に対応するため、土地区画整理事業の中で環状4号線の拡幅整備や幅員26mの幹線街路（上川井瀬谷1号線および上川井瀬谷2号線等）、幅員12～18mの道路等を整備します。また、周辺では三ツ境下草柳線、瀬谷地内線の整備や国道16号線（八王子街道）の拡幅整備を進めるとともに、新たな交通や新たなインターチェンジの検討も進めています。これらを一体的に整備することにより、交通混雑の分散・緩和を図り、周辺地域への影響を低減させていきます。</p> <p>引き続き、工事着手に向け、交通渋滞などによる周辺地域への影響を低減させるよう、交通解析をしっかりと行いながら取り組んでいきます。</p> <p>なお、国道16号線（八王子街道）については、資料P. 34の平面図にお示しする延長約1,900mの区間で拡幅整備を行います。今後、具体的な工程は、詳細な設計や施工計画などの検討を行っていく中で、決定してまいります。2027年開催の国際園芸博覧会で効果が発現できるよう取り組んでいきます。今後、詳細をお示しできる段階になりましたら、市民の皆様へお伝えしていきたいと考えています。</p>
5	<p>資料内の地図に“新たなインターチェンジ”という記載がありました。このインターチェンジとは東名高速道路と通信基地内を直結するインターチェンジを新設するという意味でしょうか。このインターチェンジについて以下をお伺いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このインターチェンジはスマートインターチェンジと通常のインターチェンジのどちらを想定しているのでしょうか。</li> <li>インターチェンジの新設には広大な土地が必要です。東名高速道路と通信基地跡の間には住宅街、公園、神社、団地などがあります。また、東名高速道路の北側には物流関連企業があります。このような土地の住民の立ち退きをお願いすることとなると思いますが、インターチェンジ建設に伴う用地として想定している範囲を具体的に教えてください。</li> </ul>	<p>「新たなインターチェンジ」とは、東名高速道路と旧上瀬谷通信施設地区を直結する新たなインターチェンジのことで、今年度に具体的な検討に着手しました。</p> <p>現在は、東名高速道路との接続位置やルート、周辺環境への影響など、基本的な検討を進めています。スマートインターチェンジか通常のインターチェンジか、及び用地として想定している範囲についても、それらとあわせて検討を進めていく予定です。</p> <p>今後、詳細をお示しできる段階になりましたら、市民の皆様へお伝えしていきたいと考えています。</p>
6	<p>1. 本土地区画整理事業の背景として、戦後70年にわたり米軍施設として使用されてきたことから、自由な土地利用が制限されてきたので、地権者の早期の生活再建が必要、とされています。現在、地権者への補償問題などが存在しているのでしょうか？また、具体的には、横浜市として、どのような地権者への経済的支援計画があるのでしょうか？</p> <p>2. 直接道路計画とは関係ありませんが、この上瀬谷での花博開催は、基地跡地であることから平和利用の象徴としてふさわしい、という趣旨の説明が頻繁になされていますが、国際園芸博覧会のHPで開催意義・目的を見ても、平和利用の象徴についての言及がなされていませんが、どうしてですか？都市整備局からたくさんの職員が出向していると思いますが、意思疎通はできていますか？</p> <p>3. 市の職員の方から、計画対象区域内の環状4号線および、八王子街道の2車線から4車線への拡幅は、渋滞解消を目的にしていない、と聞いたことがあります。東大の西成先生の「渋滞学」を援用するまでもなく、車の運転で4車線区域から2車線区域に入るポイントで渋滞が発生するのは常識です。今回の計画範囲外の土地収用による全面的な拡幅が実現されなければ、却ってひどい事態が長期にわたって続くことになると思います。今回の計画範囲外の道路拡幅の計画の見通しについて教えてください。</p>	<p>1 横浜市としては、約70年間米軍施設として接収されてきた、地元地権者の皆様の長年の思いや市民意見募集等を踏まえ、まちづくりの方針や土地利用の考え方を「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（2020年3月策定）」として取りまとめました。</p> <p>この土地利用基本計画に基づいて、市施行により土地区画整理事業を実施することを決定し、道路等のインフラを整備・改善し、土地の区画を整え、宅地の利用増進を図っていくこととしています。土地利用の具体化にあたっては、地権者と話し合いを重ね、意向を十分踏まえながら、事業を進めてきました。このことにより、地権者の皆様の土地の有効活用が図れるものと考えております。</p> <p>2 長年土地利用が制限されてきた旧上瀬谷通信施設地区で、地球環境を展望した未来志向の国際園芸博覧会が開催され、自然と共生した豊かな都市像や新たなライフスタイル、そして、基地跡地の平和的利用の象徴として、友好と平和のメッセージを世界に発信していくことは大変意義のあることだと考えています。</p> <p>この考えについては、2027年国際園芸博覧会協会とも共有しており、博覧会協会が2022年7月に公表した『2027年国際園芸博覧会基本計画案』において、『博覧会後も（中略）友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていく。』と記載されています。</p> <p>引き続き、国際園芸博覧会の開催に向け、博覧会協会と意思疎通を図り、連携しながら取り組んでいきます。</p> <p>3 将来の交通需要に対応するため、土地区画整理事業の中で環状4号線の拡幅整備や幅員26mの幹線街路（上川井瀬谷1号線および上川井瀬谷2号線等）、幅員12～18mの道路等を整備します。また、周辺では三ツ境下草柳線、瀬谷地内線の整備や国道16号線（八王子街道）の拡幅整備を進めるとともに、新たな交通や新たなインターチェンジの検討も進</p>

		<p>めています。これらを一体的に整備することにより、交通混雑の分散・緩和を図り、周辺地域への影響を低減させていきます。</p> <p>引き続き、工事着手に向け、交通渋滞などによる周辺地域への影響を低減させるよう、交通解析をしっかりと行いながら取り組んでいきます。</p>
7	<p>資料 P.29 の上川井瀬谷 1 号線のあたりは、湿地があるのではないのでしょうか。和泉川、相沢川の源流に影響があるのではないですか。影響の調査はしていますか？</p>	<p>上川井瀬谷 1 号線の南東側は、和泉川の源流域となっており、複数の湧水があることを確認しています。相沢川については、土地区画整理事業の事業区域内に源流域はございませんが、和泉川、相沢川どちらの河川も環境影響評価法に基づき、現地調査を行うとともに、工事等による影響を予測、評価しています。造成工事の実施等に伴う湧水の流量への影響を低減させるため、環境保全措置を実施する予定です。また、湧水の流量や河川の流量等の水環境については、環境影響評価法に基づく事後調査も実施する予定です。</p>
8	<p>質問内容：イ) 土地利用計画 3つの方針が記述されています。</p> <p>① 土地利用を考えるに当たっては、世界の動き・国内の状況・横浜市の状況等を、勘案され今回の計画案になったと理解致します。その根拠を教えてください。</p> <p>○ 世界の動き：科学技術の進歩(ICT, AI, IOT, 5G等)により様々な事項が融合し地域間交流が拡大している。</p> <p>○ 国内の状況：高齢者層の増加、ハンディキャップ者数が増加し、その方々が行動する場合何の交通機関を利用しますか。首都圏における上瀬谷地区の交流について、そのようにお考えになりましたか。</p> <p>○ 横浜市の状況：人口に比して働く場所が少ない。税収が少ないという横浜市固有の課題に対する解決策。</p> <p>税収不足が屢々市会答弁でされておられますが、税収増加に繋がる政策は、どのようなことを検討されておられますか。</p> <p>これ等の事に付いてどのような検討がなされたのかお聞かせください。</p> <p>ハ) 交通施設計画 バスやタクシーについて触れています。人の動きは、飛行機・鉄道・自動車・自転車・船に支えられています。</p> <p>上瀬谷地区では、鉄道と自動車、自転車等が想定されますが、何故鉄道に触れていないのか理由をお聞かせ下さい。</p> <p>①道路計画路線については、記載されていますが、道路の持つ機能について検討されたのでしょうか。これからの都市生活を考慮した場合、都市インフラとして道路空間の重要性に検討されたのでしょうか。(電気・熱エネルギーの一本化した配管、鉄道線は、脱炭素の方針に沿い SDGs に寄与する)</p> <p>今回の説明会は、「道路計画に係る都市計画手続きに向けたオンライン説明会の概要」となっていますが、何のための計画であるか、原点について確認共有する必要があります。法的手続きに重点が置かれている印象です。</p> <p>原点：世界は歴史的な大変革の渦中にあり、国内では閉塞感に重く覆われ、世界との経済ギャップが拡大し、横浜市が、抱える社会課題を解決させる「場」として上瀬谷地区は、利用されるべきと考えます。同地区は、これからの横浜市を支える重要な「場」拠点で、市民生活を豊かにする地域です。</p> <p>横浜市は、開港以来海洋産業(港湾、造船、海運)とモノづくり産業(京浜工業地帯)等により経済発展し、日本の経済力拡大に寄与してきました。</p> <p>所有地の大半が農地ということで、土地利用は、農業的分野に特化した利用計画が中心ですが、税収、横浜市の特色として工業的分野に変更するのが、横浜市らしさを強化する事になり、又、国の経済力強化に寄与します。</p> <p>農業は、それを特色としている県内では、三浦市他、若しくは農業県と言われるところに任せる方が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>旧上瀬谷通信施設地区では、地権者で構成する「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会」との意見交換や市民意見募集等を踏まえて、まちづくりの方針や土地利用の考え方を「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画(2020年3月策定)」として取りまとめ、これに基づいて、まちづくりを進めています。</p> <p>同計画では、土地利用として、農業振興ゾーン、観光・賑わいゾーン、物流ゾーン、公園・防災ゾーンを設定し、各ゾーンで、次世代に向けた土地利用を行うことや、国際園芸博覧会のレガシーを継承した公園の整備などにより、国内外から注目される、新たな活性化拠点の形成を目指しております。上瀬谷が持つ高いポテンシャルを活かし、賑わいと活気のあるまちづくりを実現することで、交流人口が増加し、経済波及効果や市税収入の増加が見込まれるものと考えます。</p> <p>また、交通計画については、東名高速道路や保土ヶ谷バイパスに近接しているという優位性を活かし、土地区画整理事業区域内及び周辺道路の整備を進めるほか、公共交通機関として瀬谷駅を起点とした新たな交通の導入を図ることとしています。この新たな交通については、整備コストの抑制を図りつつ、将来の土地利用に見合う十分な輸送力を確保するため、新たな技術の活用も含めて幅広い検討を進めています。今後、詳細をお示しできる段階になりましたら、市民の皆様へお伝えしていきたいと考えています。</p> <p>道路空間の検討については、「安全で快適な通行空間の確保」、「都市景観の向上」、「安定したライフラインの実現」、「情報通信ネットワークの信頼性向上」を推進するべく、事業区域内の無電柱化を進め、新設する道路の地下に電線類を収容する電線共同溝を整備する予定です。</p> <p>前述のとおり、旧上瀬谷通信施設地区では、農業振興ゾーン、観光・賑わいゾーン、物流ゾーン、公園・防災ゾーンを設定し、各ゾーンが連携することにより、新たな活性化拠点の形成を目指していきます。このなかで、農業については、横浜都市農業推進プランにおいて、「持続できる都市農業を推進する」という計画のもと、市全域でまとまりのある農地等の保全に取り組んでおり、本地区においても引き続き、農業振興を推進していきます。</p> <p>最後に、今回の説明会は、「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業における道路計画に係るオンライン説明会」として、今後予定している都市計画手続きに先立ち、本地区の現況や状況をお示ししつつ、主な上位計画における位置づけや、まちづくりの方向性、将来の交通需要に対応するために必要な道路計画の概要等を説明するために開催しています。</p>